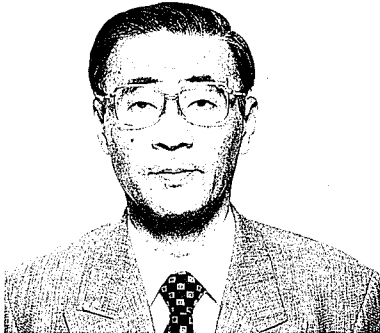


厚板特集の発刊にあたって



厚板営業部 部長

堀 茂則

前回の厚板特集は、今から4年前の1993年(平成5年)に、発刊されました。当時の厚板は「重厚長大」の旗頭のように思われ、バブル崩壊後のアゲインストの風をまともに受けて、誠に激しい環境下にありました。その中で、日本経済の発展と社会資本の充実の礎としての厚板の役目を信じ、新機能商品の開発や、製造コストの改善に、関係者が文字通り一丸となって、必死の努力を積み重ねてまいりました。これに加えて、需要家における厚板の利用技術の進歩向上努力と、厚板の発展に対する情熱とが相まって、現時点では、国際競争力を有する厚板に近づきつつあるものと思われまます。

しかしながら、真の厚板の製品競争力とは何かと考えた時、まだまだ努力しなければならないことが、多々あります。コスト競争力自体も、FOBベースでの優位性がなければ、真の国際競争力とは言えません。品質や付加機能についても、社会生活や経済事情、更には、環境への配慮がなされ、製品のトータルライフコストまで秀でたものでなければ、基盤商品とは言えません。このような視点から、更なる改善努力を継続する必要があると認識しています。

今回の厚板特集号の発刊にあたり、以上の視点に沿ったテーマを、可能な限り、特集しました。厚板製造の基本工程である圧延機に、従来に無い付加価値を加え、圧延品質と圧延能率の向上とを両立させるペアクロスミルの厚板初の適用事例や、船舶の破壊安定性の向上に寄与するHIAREST鋼板の開発事例、さらには、現在確固たるマーケットを有する既存耐食鋼に留まらずに、より優れた性能を追求した新耐食鋼の開発事例等をご紹介します。

これを機会に、需要家、並びに関係各位のこれまでも増したご指導とご愛顧を賜りますよう、心よりお願いいたします。